



給料日のエトセトラ

神戸大学 経済経営研究所
助教 明坂 弥香

国立大学での勤務も4年目を迎える私には、給料日と言えれば毎月17日である。先日、たまたま通った昼間のオフィス街で、ATMに長い行列ができているのを見かけた。「どうしてみんな、昼休みに列に並んでまでお金を引き落としたいのだろう」などと考え、「なるほど世間は今日(25日)が給料日なのか」と気がつくのに随分と時間を要した。学部時代は複数のアルバイトを掛け持ち、あれほど25日の到来を楽しみにしていたにもかかわらず、現金な話である。今回私が担当するコラムでは、このような給料日にまつわる研究について、自身の頭の整理をかねて書いていきたい。

経済学が仮定するライフサイクル・恒常所得仮説の下では、予測される将来所得をもとに家計は消費を決定する。そして給与支給日に受け取るお金は、予測可能な所得の代表例と言えよう。決まった日に決まった額を受け取るという意味で、年金や生活保護も同様である。ゆえに、予測する所得の総額が変化しない限り、人々の消費は支払いサイクルとは無関係に決まるはずである。つまり、支給日が17日と25日のように日付が違ったり、アメリカの給与のように支払い頻度が月2回に変更されたりしても、人々の消費計画は影響を受けないはずである。

ところが、マイクロデータを使って家計消費を観察してみると、家計の消費量は支給日に強く影響を受けていることが分かる。アメリカの年金受給世帯の消費パターンを調べたStephens (2003)は、年金の支給日である毎月3日以降に消費額が跳ね上がることを示した。Food Stamp¹や年金の支給日と食費の関係を調べたShapiro (2005)やMastrobuoni and Weinberg (2009)は、支給日直前になると食費が有意に減少することを示した。Hastings and Washington (2010)は、購入品の詳細が分かる店舗のスキャナーデータを用いて、このような消費額の減少は、購入品の質を下げることで無く、量を減らすことで主に生じていると指摘した。これらの研究が示唆するように、どうやら家計は近視眼的で、やりくり失敗している様子である。

支給日前の家計のやりくりの失敗がもたらす二次的な影響もあるようだ。例えば、Carr and Packham (2019)は、Food Stampの支給日と犯罪の関係を調査し、Food Stampの支給

¹ 低所得者向けの食料品専用クーポンのこと。

日前に窃盗や万引き等の犯罪が増え、支給日になると減少することを示した。Bond et al. (2022)は、Food Stamp の支給サイクルと大学進学に必要な適性試験のスコアの関係調べた。Food Stamp の支給日は地域によって異なり、適性試験の日程がたまたま Food Stamp の支給日前にあたった場合、低所得世帯の子どものスコアが低下し、4年制大学への進学率も低下した。

年金の支給サイクルとリスク選好の関係を明らかにしたのが Akesaka et al. (2021)である。インタビュー形式で収集された調査データを用いて、調査日から直近の年金支給日までの日数とリスク選好の関係を分析した。すると、年金支給日前に人々は平均してリスク愛好的になり、このような傾向はアメリカと日本で共通して見られた。理由として、年金支給日前になると人々は抑うつ度の上昇や、相対的剥奪を感じる傾向にあり、メンタルヘルスの悪化がリスク選好の変化に繋がったのでは無いかと指摘している。

これほど家計が支給日に影響を受けるのだから、政策立案者が支給日の設定を変更することで、状況を改善することができるかも知れない。例えば、Stephens and Unayama (2011)は、日本の年金の支給頻度が四半期に一度から隔月に変更されたことで、家計が消費の平準化を実現しやすくなったと報告している。また、Baugh and Wang (2021)は、第一に支給日どうしの間隔が広いと家計が経済的困難に陥るリスクが高いこと、第二に支給日と家賃等の支払い日の間隔が離れているほど、支払いの不履行が発生する確率が高いことを明らかにした。今まであまり留意されてこなかった支給日だが、その設定について一考の価値がありそうである。

【参考文献】

Akesaka, M., Eibich, P., Hanaoka, C., & Shigeoka, H. (2021). Temporal instability of risk preference among the poor: Evidence from payday cycles (No. w28784). National Bureau of Economic Research.

Baugh, B., & Wang, J. (2018). When is it hard to make ends meet?. RRC Paper No. NB117-05. Cambridge, MA: National Bureau of Economic Research.

Bond, T. N., Carr, J. B., Packham, A., & Smith, J. (2021). Hungry for Success? SNAP Timing, High-Stakes Exam Performance, and College Attendance (No. w28386). National Bureau of Economic Research.

Carr, J. B., & Packham, A. (2019). SNAP benefits and crime: Evidence from changing disbursement schedules. *Review of Economics and Statistics*, 101(2), 310-325.

Hastings, J., & Washington, E. (2010). The first of the month effect: consumer behavior and store responses. *American economic Journal: economic policy*, 2(2), 142-62.

Mastrobuoni, G., & Weinberg, M. (2009). Heterogeneity in intra-monthly consumption patterns, self-control, and savings at retirement. *American Economic Journal: Economic Policy*, 1(2), 163-89.

Shapiro, J. M. (2005). Is there a daily discount rate? Evidence from the food stamp nutrition cycle. *Journal of public Economics*, 89(2-3), 303-325.

Stephens Jr, M. (2003). " 3rd of the Month": Do social security recipients smooth consumption between checks?. *American Economic Review*, 93(1), 406-422.

Stephens, M., & Unayama, T. (2011). The consumption response to seasonal income: Evidence from Japanese public pension benefits. *American Economic Journal: Applied Economics*, 3(4), 86-118.